

年 月 日

アクアトップFカラークリヤー艶消白
(一液常乾型フッ素樹脂塗料)

－打放しコンクリート濡れ肌防止工法－

施 工 手 順 書

工事名称	
所在地	
設計・監理	
請負会社	
施工会社	

大同塗料株式会社

本社 〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北2丁目14番18号
TEL.06-6308-6288 FAX.06-6308-3618

施工手順書

1. 適用

1-1. 本施工手順書は_____工事への
アクアトップ F カラークリヤー艶消白の施工手順書として適用する。

1-2. 本書の適用においてメーカーのカタログや技術資料を参照する。

2. 施工上の注意事項

2-1. 材料の取り扱い

1) 火気に注意し、爆発、火炎等の事故を起こさないようにする。また塗材を拭き取った布、塗材の付着した布片等は速やかに密閉できる空容器に回収する。

2) メーカーの指示に従い適正な取り扱いを行う。

2-2. 気象条件

1) 温度の影響

気温が 5℃以下の時は施工しないこと。また、日中に気温が上がっても夕暮れから急に気温が低下する場合や、夜間に冷え切った下地が日中になっても温まらない場合がある。性能不良等の原因となるので施工にあたっては十分注意する。

2) 風の影響

風速 5m/秒以上の場合は施工を中止する。特にこれが低温の場合は注意が必要である。風のため気温より壁面温度が一層低くなる。風の影響をなくすためシートを掛けることを心がける。また高層の場合、地上よりまして風速が加わるので注意する。

3) 雨の影響

塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工時はもちろんのこと、施工終了後の気象状況にも配慮することが大切である。また施工前に降雨があった場合には、下地に水分が残り、高い含水率を示すことがある。下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入るようにする。

4) 湿度の影響

湿度の高い(85%以上)日に塗装を行う場合は、乾燥が非常に遅く作業性が悪くなる。できるだけ通風を良くする。

2-3. 施工条件の管理

1) 本施工に入る前に必ず試験塗装を行い、現場管理者の承認を得るようにする。下地の差などからくる提出見本との微妙な相違点は予め承認を得ておくことが大切である。

2) 塗材の塗布量が標準塗布量より少なくなると、吸水防止効果のムラ発生の原因となる。塗布量は、平らな面に実際付着させる塗材の標準量とする。

3) 足場板の影の部分は、足場ムラが出やすいので細心の注意を払い、足場を外す前に必ず検査をして、ムラがある場合は補修をする。

4) 塗装を行う場所は換気に注意して、溶剤による中毒を起こさないようにする。

5) 本製品は、石油・シンナー臭と飛散があるので、施工にあたっては周辺環境にも留意する。特に近隣の居住者には事前の説明および了承を得るようにする。

施工手順書 アクアトップ F 打放しコンクリート濡れ肌防止工法

2-4. 養生

- 1) 養生は汚れ防止のため入念に行う。特に非塗布面に誤って付着した時は、迅速に拭き取る必要がある。何よりも施工時に十分に気をつけることが大切である。
- 2) 望ましくは、捨てテープ法を用いる。捨てテープは吹き付け後 1 時間以内にゆるやかに取り除く。
- 3) 養生材：ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを粘着テープにて接着する。接着剤付きの養生材は粘着テープが不要である。
- 4) 注意点：施工面とテープとの境目が蛇行しないように行う。また、風等により簡単に剥がれないようにする。

2-5. 塗装面の保護

- 1) 塗材が所定の性能に達するまでの期間は、物との接触、水または油等から保護するため適正な養生を施す。

2-6. 完了検査・手直し

- 1) 完了した塗布面について水かけテストを行い、撥水状態と 30 秒から 1 分以内に濡れ色が出ない事を確認する。塗布もれがあれば乾燥後手直しを行う。

3. 施工手順

[アクアトップ F カラークリヤー艶消白 打放しコンクリート面]

3-1. 事前確認

- 1) 新築か補修かによって、また基材の種類によって施工の工程、数量や養生等に影響があるので十分に確認する(補修部位等、吸い込みの少ない場合は注意が必要)。
- 2) 施工前に試し塗りをを行い、仕上がり感を事前に確認する。

3-2. 前処理

- 1) 塗布対象面は、汚れ、油分などを除去し、清浄かつ乾燥した状態にする(含水率目安：ケット水分計 6%以下)。
- 2) 処理面のクラック、ジャンカ等のあるときは前もって補修する(クリヤー仕上げの時は色合わせ補修を行う)。但し、壁面で 0.3mm 幅以下のクラック、ピンホールの場合は補修なしでアクアシールを塗布しても、吸水防止性能が得られる。
- 3) 溶剤の影響を受ける可能性がある周辺(ガラス、庭木等)に対しては必ず養生を行う。
- 4) 風向き、気温等の影響および塗装の方法により臭気が強く感じられることがあるので臭気対策のための養生を行う。

3-3. 下塗り

- 1) アクアシール 200S は希釈せずそのまま使用する。
- 2) 塗布方法は、原則としてローラーで施工する(スプレーで塗装する場合は、霧散するので周辺の養生はより確実に行う)。
- 3) アクアシール 200S は乾燥すると塗布面と未塗布面との区別がつきにくくなる。塗りもれのな

いようブロック毎等、中断することなく連続で塗布する。

- 4) アクアシール 200S を塗布面にむらなく十分に浸透させるためには、一度に厚塗りせず 2 回塗り重ね、所定の量を確実に塗布する(標準塗布量 $0.20\sim 0.24\text{L}/\text{m}^2$ 、スプレーで塗装する場合は、霧散するので 2~4 割程度多めの量を塗布する)。アクアシール 200S は浸透型なので追っかけ塗りが可能である。
- 5) アクアシール 200S の塗布面は 20°C 、6 時間以上乾燥養生する。溶剤が完全に気化する前に塗布面が水分に触れることは避ける。
- 6) 養生時間の目安

20°C	6 時間以上
10°C	24 時間以上
5°C	48 時間以上
- 7) アクアシール 200S が塗布面以外に付着した場合、速やかにシンナー等で拭き取る(固着すると全く除去できなくなる場合があるので十分に注意する)。

3-3. 上塗り

- 1) アクアトップ F は専用シンナーで希釈し、電動ミキサーで 2~3 分かけて十分に攪拌する。
- 2) アクアトップ F の標準塗布量は 2 回塗りで $0.2\sim 0.24\text{kg}/\text{m}^2$ とし、スプレーにて均一に塗布する。特に、膜厚により大きく色調が変わる場合があるので一度に厚塗りせず、色相を見ながらタレに注意して塗布量の微調整を行う。
- 3) 1 回目の塗膜は 20°C 、30 分程度で乾燥する。その後 2 回目を塗布する。2 回目は垂れやすいので注意する。
- 4) 仕上げの塗装後 20°C で 3 時間以上の養生が必要となる。
- 5) シーリング用の目地は養生し、塗料が付着しないように工夫する。シーリング材の上にはアクアトップ F の塗膜が付着しない場合がある。
- 6) アクアトップ F が処理面以外に付着した場合、速やかに専用シンナーで拭き取る。

3-4. 検査

- 1) 塗りムラ、塗り残し、塗布量不足、ピンホール、キズ等を確認する。